

加賀領惣代滑川

高田 甚 吉 ㊦

松井 栄 吉 ㊦

六 玉井家文書

(玉井義理氏蔵)

一 西大寺豊心丹につき訴状

宝永二年

謹口上書を以願上候覚

一 西大寺豊心丹の来由者仁治二年興正菩薩(叙尊)四十二歳の時

少彦名命石落神一人の老翁と現し菩薩戒を受け、その

酬恩のために一つの薬方を示し給ふ、是を豊心丹と名

く、服用するに其益速なり、則東門の辺に社を建て是

を石落神と名く、此神ハ能楽艸の性をあきらめ衆生の

病を治し給ふ、年の始に咒薬の法会として今に到て秘

法を修し薬を加持仕事御座候

一 於ニ御当地ニ所々豊心丹雁薬仕、西大寺寺号面々共之

院号判形迄似せ申候而商売仕、又者国々へ遣し申候得

ハ、上々様の御服用も難計奉存候、勿論似せ薬之調合

何とも無心元奉存候、然ニ無薬力似せ薬発向仕候得

ハ、次第ニ豊心丹之名誉捨り申候段、迷惑千万奉存

候、乍憚右之趣致聞召上、御当地町中似セ薬不仕候様

ニ被仰付被下候者、一山之者とも難有可奉存候

以 上

宝永二年二月廿七日

西大寺惣代

普門院寛慶 印

一之室蜜堯 印

極楽院尊覚 印

唐院高等覚 印

南都御番所

二 西大寺豊心丹につき裁訴状

覚

近年西大寺豊心丹之儀所々ニ而似セ薬令調合、西大寺

寺号并院号迄も似セ候而商売候段、兼々相聞江不届之

仕形ニ候、向後少も似セ薬仕間敷候、若相背候もの有之候者、急度可申付候間、右之趣寺社領江可致相触候、以上

酉三月九日

興福寺 東大寺

町方

妻(木) 彦右衛門

七 辻家文書

(辻政嗣氏蔵)

一 薬種株につき控書(拔萃)

天明三年

(表紙)

老番 天明四年

清水御役所南都御番所江差上書付扣

辰正月より

辻村助右衛門

乍恐以書付奉願上候

一 薬屋〔善尾村〕太兵衛、加賀屋〔南都北袋町〕藤兵衛御願申上候、薬種屋組合株

組頭之義、段々御吟味之上、此度組頭之義願之通御聞届被遊候ニ付、私共義人別ニ銀拾五匁ツ、右兩人方江差出し、私共薬種御銀相滞候節ハ、右兩人より相願候様可仕旨被仰渡、且又右拾五匁之内半銀ハ上納被仰付候旨、是又被仰渡奉承知候、然ルニ先達而被召出候節、地頭表江相断候所、重而被召出印形等差上候義者地頭表江相断、其上印形可奉差上旨被仰渡候、依之此度御請印之儀地頭表江相断、来ル六月十日罷出可申候間、何卒右日限迄印形差上候儀御猶予奉願上候、此段御聞届被為成下候ハ、難有可奉存候、以上

天明三卯五月晦日

清水御領知式上郡出雲村

清兵衛

辻村 助

伊 三輪村

伊兵衛

山辺郡長柄村

安兵衛

御番所様

乍恐(ウ)以書付ヲ以奉伺上候

一 私共義農業手透之時節ハ、少々ツ、薬種商売仕候所、

〔安永九年〕

四年巳前子年南都北袋町加賀屋藤兵衛、和州広瀬郡箸

尾村薬種屋多兵衛右両人之者共御上江冥加銀差上、薬

種改会所ヲ立、薬種組会御願申上候ニ付、其節私共南

都御番所へ被召出、御糺之上帰村被仰付、其後御沙汰

も無御座候処、先月廿九日急ニ御召出ニ付、罷出候

処、被仰渡ハ、右薬種屋組会御定ニ付、薬種共老軒よ

り老ケ年銀拾五匁宛願人江差出し、内七匁五分ハ上納

ニ相成、七匁五分ハ願人共徳用ニ相渡シ可申旨被仰

渡、御請印形差上候様仰付候ニ付、私共申上候者、此

度之御召出火急ニ付、清水御役所様へ御届申上候上ニ

而罷出候義ニ而御座候得共、此度之儀も清水御役所へ

御届申上度、暫御猶予被成下候様奉願上候処、御聞届

ケ被成下候ニ付、来ル五日迄御日延奉願上置、然ルニ

私共薬種商売之儀誠ニ少しツ、之儀ニ而、御冥加銀上

納仕候義ハ甚難義ニ奉存候得共、是悲共被仰付候御番

難相成候事ニ御座候ハ、南都御番所へ上納仕候哉乍

難相成候事ニ御座候ハ、南都御番所へ上納仕候哉乍

恐此段御伺奉申上候

天明三年 卯 六月二日

和州式上郡出雲村

薬種屋

同 村

庄屋

同郡三輪村

薬種屋

同 村

庄屋

同郡辻

薬種屋

同 村

庄屋

山辺郡長柄村

薬種屋

同 村

庄屋

清水様

御役所

二 薬種仲間等組合同约定書・追約定書

嘉永七年

(表紙)

薬種合薬 仲間組合同约定書并追約定書
質屋三商売

但本証文者五條御用達源兵衛方ニ有之

約定連印一札之事

- 一 去般仲間組合再與被仰出候ニ付、和州在方薬種、合薬取締南都北袋町助蔵被相勤候ニ付、文化以前之通手先年行司と唱候者在々江取調ニ相廻り、右ニ付不束之儀有之、依之御料所惣代庄屋より御番所様江当七月中申立候折柄、五條表御用達源兵衛殿取嚙給り、熟談之上穩濟約定左之通
- 一 助蔵手先年行司と唱候者今般相断、向後之処助蔵并惣代庄屋相談之上人体見立相定可申事

- 一 渡世筋ニ付助蔵より御達之節者、今般見立候年行司無違背相勤可申事

- 一 薬種、合薬屋組合仲間進退品替り改名等之節者助蔵江申出、御届可被下候事

- 一 諸願者所役人ニ而取調、御支配御役所江添翰を以罷出候様可致事

- 一 御冥加銀等今般年行司相勤候者取集、助蔵江相収可申事

- 一 薬種、合薬組合仲間之外和薬と唱へ新規之組合と不申立候事

- 一 薬種先銀と唱へ貸付之儀者決而不致候事

- 一 合薬組合仲間之儀、元制薬調合所ニ加入有之候者取次人者加入ニ不及候事

- 一 薬種屋仲間以来譲り替入用銀貳拾目宛、并改名壹株ニ付銀三匁ツ、尚亦年八匁ヶ年ニ付壹人前貳匁貳分ツ、助蔵江相渡可申事

- 一 合薬種屋仲間以来譲り替入用銀四匁五分宛、并改名壹株ニ付銀壹匁五分ツ、尚亦年八勤入用壹人前銀壹匁五

分ツ、助蔵江無相違相渡可申事

一 薬種、合薬渡世相止メ候者早速年行司より助蔵江相断可申候、御届雜費料銀壹匁ツ、無相違差出し可申事

右之通穩濟相整、向後組合仲間手狭窮屈之儀無之様為致候者勿論、不正之取引不仕実躰正路ニ渡世相励候様

惣代庄屋より申聞、尚亦取扱人源兵衛殿右約定書双方連印致相渡置候ニ付、今般御番所様江御願筋一切故障

無御座穩濟相整、自今双方実意ニ執計可申候、為後日之約定書仍而如件

嘉永七 寅年八月

同

宇智郡岡村 詰合惣代 定 七

同

吉野郡尼ヶ生村 詰合惣代 孫 助

取唆人

五條御用達

中屋源兵衛殿

御料所

惣代中

但、砂糖屋、菓子屋仲間組合御料所ハ加入無之事、於

御私領ニ差支之訳申之候ニ付、書付ニ認不申候約速ニ

御座候

森岡庄作

手代 上月一三

南都北袋町

加賀屋

助 蔵

石原清左衛門御代官所

宇陀郡大蔵村

七郎兵衛

同

平群郡額田部村

詰合惣代 嘉兵衛

植村出羽守殿御預所

十市郡新賀村

詰合惣代 佐右衛門

同

高市郡今井町

詰合惣代 吉左衛門

内藤左衛門殿御代官所

葛下郡曾根村

詰合惣代 永三郎

質屋三商売取締一札之写

但、本証文五條御用達源兵衛殿方ニ有之

約定連印一札之事

一 今般仲間組合再與被仰出候ニ付、和州在方質屋并三商

売人取締南都橋本町庄作被相勤候ニ付、文化以前之通

手先年行司と唱へ候者在々江取調ニ相廻り、右ニ付不
束之儀有之、仍而御料所惣代庄屋より御番所様江当七
月中申立候折柄、五條表御用達源兵衛殿取賤給り、熟
談之上穩濟約定左之通

一 庄作方手先年行司と相唱へ候者此度相断、向後之処庄
作殿并惣代庄屋相談之上人体見立相定可申事

一 渡世筋ニ付庄作方より御達し有之節者、今般見立候年
行司無相違相勤可申事

一 御年貢等差詰、村役人共相談之上沽却建物并諸道具売
払候節、渡世人之外にても村役人立会勝手ニ売捌可申
事

一 質屋并古手、古道具、古鉄屋組合仲間進退品替り改名
等之節者庄作方へ申出、御届可被下候事

一 諸願者所役人ニ而取調、御支配所御添切手を以罷出候
様可致候事

一 御冥加銀等被仰出候ハ、今般年行司相勤候ものより取
集、庄作方江相納可申事

一 質屋仲間以来譲り替入用銀拾老匁ツ、并改名老株ニ

付銀三匁ツ、尚亦年八老ケ年ニ付老人前ニ銀老匁式
分ツ、庄作方へ無相違相渡可申事

一 古手、古道具、古鉄屋仲間以来譲り替入用銀五匁八分
ツ、并改名老株ニ付銀老匁五分ツ、尚亦年八勤入
用老人前銀六分ツ、庄作方江無相違相渡可申事

一 質屋并古手、古道具、古鉄屋之内渡世相止メ候者者、
早速年行司より庄作方へ組合相断、御届雜費料銀老匁
ツ、無相違差出し可申事

右之通穩濟相整、向後組合仲間手狭窮屈之儀無之様為
致候者勿論、不正之取引不仕実躰正路ニ渡世相稼候様
惣代庄屋より申聞、尚亦取扱人源兵衛殿江右約定書双
方連印致相渡置候ニ付、今般御番所様江御願筋一切故
障無御座候穩濟相整、自今双方実意ニ執計可申候、為
後日之約定書依而如件

嘉永七 眞年八月

南都橋本町

森岡庄作

石原清左衛門殿御代官所
宇陀郡大蔵村
詰合惣代 七郎兵衛

一 薬種方組合仲間取締助蔵手先年行司之儀者、稼人之

追約定之事

但、山林田畑家屋鋪質物引当之儀者、質屋渡世ニ加入
無之とも其村々以前仕来之通仲間加入無之共不苦候事

惣代中

御料所三分

取暖人
五條御用達
中屋源兵衛殿

同	平群郡額田部村	詰合惣代	嘉兵衛
	植村出羽守殿御預所		
	十市郡新賀村	詰合惣代	左右衛門
同	高市郡今井町	詰合惣代	吉左衛門
	内藤左衛門殿御代官所		
	高市郡曾根村	詰合惣代	永三郎
同	宇智郡岡村	詰合惣代	定七
同	吉野郡尼ヶ生村	詰合惣代	孫助

帰依無之歟、又者不束之もの者惣代庄屋より助蔵江申
 出、相談之上年行司名前差替可申事
 一 当国産物と薬渡世人江薬種札ニ和之小印付鑑札相渡有
 之候分、惣代庄屋より右者新規ニ相当候旨申立候処、
 再興御触面之表ニ現在之姿通と被仰出も有之候ニ付、
 稼人より所望之者多分有之、旁右小印を入候儘相用ひ
 度趣ニ付、彼是差纏れ罷在候処、今般双方より暖人江
 相任せ、御料所ニ於者和之小印相除可申候、乍去現在
 之姿を以再興被仰渡候儀ニ付、右稼人者国産薬種一業
 ニ而、尤唐紅毛物医家江取引いたし候薬店之儀者、從
 御公儀様毎々被仰出、不正拔船紛敷品臨時取調ニ付折
 々参会吟味仕逢等有之、右者仲間先規仕来之通取締、
 猶已来混雜不致様助蔵より篤と取締可申者勿論、都而
 差支之筋互ニ申出間鋪約定ニて和談相整、其外取締向
 之儀者先達而御取扱五條御用達源兵衛殿江双方より相
 渡有之約定書之通相守可申候、為後証双方連印約定書
 如件

安政三辰年十二月

藥種合業組合仲間
取締南都北袋町

助 蔵 印

同断用惣代
葛下郡高田村

喜右衛門

内藤左衛門様御代官所
宇智郡岡村

詰合惣代 定 七

吉野郡上市村
右同断 弥右衛門

同郡尼ヶ生村
右同断 孫 助

宇陀郡大蔵村
右同断 七郎兵衛

石原清一郎様御代官所
平群郡岡崎村

右同断 伝 兵 衛

角倉与一様御代官所
宇陀郡藤井村

右同断 佐右衛門

代兼

同郡自明村
右同断 平 内

植村出羽守様御預り所
十市郡新賀村

右同断 佐右衛門

高市郡今井町
右同断 吉左衛門

葛上郡蛇穴村

取扱人

年寄 平右衛門殿

同郡御所町

取扱人

年寄 伊右衛門殿

御料所

御四分惣代中

右書付私江預り置候ニ付、御入用之節者差出可申候、
以上

蛇穴村年寄 平右衛門

和州御料所

植村出羽守様

御預り所

年預中

追約定之事

一 質三商売組合仲間取締庄作手先年行司之儀者、渡世人
之帰依無之歟、又者不束之もの者惣代庄屋より庄作江
申出実否相糺、相談之上年行司差替可申者勿論、其外
取締向之儀者先達而取扱五條御用達源兵衛殿へ相渡有
之約定書之通相守可申候、為後証双方連印追約定書如
件

質屋三商売組合仲間

取締南都橋本町

森岡庄作

和州御料所

右書付私方江預り置候ニ付、御入用之節者差出可申候、
以上

葛上郡蛇穴村
取扱人 年寄 平右衛門殿
同郡御所町
取扱人 年寄 伊右衛門殿

蛇穴村年寄 平右衛門

内藤左衛門様御代官所
宇智郡岡村
詰合惣代 定 七
右同断 吉野郡上市村
右同断 弥右衛門
右同断 同郡尼ヶ生村
右同断 孫 助
右同断 宇陀郡大藏村
右同断 七郎兵衛
石原清一郎様御代官所
平群郡岡崎村
右同断 伝 兵衛
角倉与市様御代官所
宇陀郡自明村
右同断 平 内
植村出羽守様御預リ所
十市郡新賀村
右同断 佐右衛門
右同断 高市郡今井町
右同断 吉左衛門

植村出羽守様

御預所

年預中

八 高木家文書

(奈良県立奈良図書館蔵)

一町代高木又兵衛諸事控

宝永年間

町中薬種屋之覚

永楽弥左衛門代

角振町

五兵衛

同新屋

薬屋忠兵衛

同新屋町

伊勢屋久左衛門

東向南

大津屋徳右衛門

東向北

香具屋市左衛門

花芝

薬屋庄五郎

宮住

薬屋源右衛門

宮住

薬屋新兵衛

今御門

長屋吉右衛門

興善院

薬屋五郎兵衛

魚屋西

大津屋吉右衛門

上三条

蔵屋平三郎

橋本

藤屋

手代平兵衛

橋本

堺屋又八郎

光明院

秋田屋喜右衛門

下御門

播磨屋理右衛門

井上

北端次郎兵衛

元興寺

丁字屋喜兵衛

元興寺 藤田善右衛門 芝新屋 山田八良右衛門
 元林院 香具屋伊兵衛 鵲 日野屋六良兵衛
 下清水 香具屋平兵衛 上清水 檜皮屋九兵衛
 上清水 荻野屋宗右衛門 下高畠 松田清兵衛
 浄言寺 小西長右衛門 般若寺 薬屋七良兵衛
 合式十八軒 内六軒寺下

九 筒井家文書

(筒井正雄氏蔵)

一 大和国奈良国中名所記

明和六年

明和六年孟春正月 和州奈良大仏 井筒屋庄八版
 大和国奈良并国中寺社名所旧跡記

ならのめいぶつ

一 ぐそく 一 さらし 一 ゆゑんずミ
 一 さけ 一 もんじゆ四郎小刀
 一 まんぢう 一 西大寺ほう志んたん

一 三秀亭さんしゅうていの志んたんぐわん
 右の外めいぶつ物なし

一〇 角尾家文書

(角尾吉高氏蔵)

一 株仲間再興につき御願

安政二年

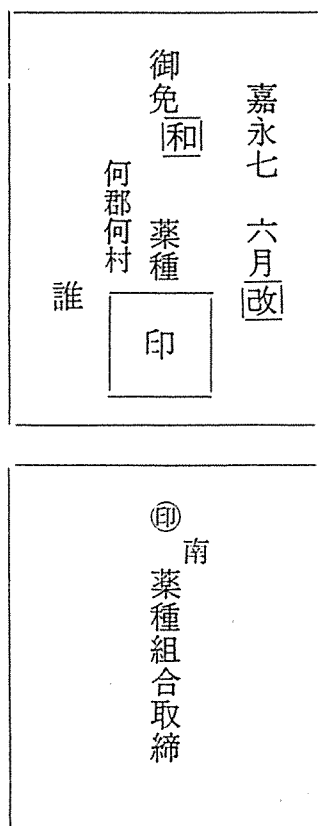
乍恐以書付御願奉申上候

内藤左衛門殿御代官所和州宇智郡外五郡総代共御願奉
 申上候、去ル亥年中諸問屋組合仲ヶ間再興被仰出、文化度
 已前之通り御触届相守正路ニ渡世可致旨被仰出候、御趣
 意難有仕合ニ奉存、御改正已前仲ヶ間有之候、渡世筋現
 在之姿を取調御支配御役所御添簡を以奈良御奉行所江御
 届奉申上候、然ル処同所橋本町庄作義者質屋并三商売与
 唱仲ヶ間有之組合頭相勤、同所北袋町助蔵義者薬種屋合
 薬屋組合頭相勤候様被仰付候趣ヲ以、右兩人手先キ年行
 司与唱候もの国中在々ニ有之、村々江相廻り年八御祝儀
 料并諸入用等其時々無遅滞急度可差出旨帳面相認、渡世

人印形等取之、別而助藏義者年行司共与馴合、新規和藥株無之候而者藥種屋合藥屋仲間ニ而も当国和藥類耆根も売買不相成旨被仰出候趣ヲ以在々百姓共江申聞候ニ付、追々加入仕候旨百姓共申之、当国之義者右和藥株与唱仲ケ間無之候而も藥種合藥ニ渡世之内ニ而手広ニ相捌キ和藥売買之儀聊差支無御座候処、同渡世向を三株ニ企候者、組合頭与年行司馳合年八諸入用与唱年々多分之金銀相集、私欲可致取目論見ニ相違無御座様奉存候ニ付、不得止事去寅七月中御料所惣代共々奈良御奉行所江奉願上候処、当国五條御陣屋許江庄作助藏罷越御用達五條村御用達庄屋源兵衛相頼、同人取扱ニ□入是迄之年行司者相断、向後年行司之義者惣代庄屋并庄作助藏共相談之上相見立可申筈、其外已来同人共不束之義無之様逸々取極メ、百姓難渋之廉々相除約定ニ付、取締和談内濟行届候処、右年行司共不束之義聊無之、殊ニ藥種方ハ真偽之取調方差支候ニ付、旧例手馳之年行司相断素人年行司ニ而者第一被仰渡之御趣意ニも相背候旨申聞候得共、向々取寄ニ而者能々藥撰相弁候もの相見立候様可仕候間、御差

2 古文書

支無御座様奉存候、勿論助藏義者藥種渡世之ものニ者決而無之墨製家業ニいたし御改正已前迄者藥種名目銀貸付等なし罷在候ものニ而藥撰之身分ニ無之処、無其儀組合頭相勤私欲而已取計、都角右渡世筋年行司共在々相廻リ偽リ申聞百姓共相欺仲ケ間加入為致受印形取之私欲取企候段全不束之致方与奉存候、然ニ約定書付取崩剩渡世人江相渡候木札左之通



右者新規和藥株

外

藥種株 合藥株

質屋株 古手 古道具 三商売株

右四株者御改革已前組合仲間ニ相違無御座候

右何れも木札拵方者新規和藁株同様ニ而老枚ニ付銀老式分ニ而出来可申木札ヲ以、和藁株者札料銀拾貳年八諸入用銀貳匁五分藁種者老株ニ付銀拾貳匁拾四匁迄合藁株者銀八匁五分質屋株銀五匁九分三商売株者銀四匁七分、右様甲乙いたし御免御鑑札料与唱年八諸入用も都合いたし年行司共相廻リ敵敷取立申候、右仲間人数國中ニ而凡貳万貳千人都合凡銀高百五拾貫目余茂有之、且又右年八料并御鑑札料差出兼候もの江者奈良御奉行所々現在御差紙ヲ以被召出無是非右銀相渡候様可仕候段重々歎ケ敷奉存候、〔多分之銀高〕〔後筆〕乍去書面年八料并御鑑札料之義奈良御奉行所始メ江戸御表江も相納候義ニ相違無御座候得者聊申分無御座候得共、庄作助蔵義私欲押領仕右江年行司共馴合割賦配当可仕義ニ候得者、右様之もの江組合頭為相勤置是迄之年行司も此儘差置候而者〔元締ニも不相成〕〔後筆〕後難難計、渡世人者勿論百姓共重々相歎候ニ付庄作助蔵江掛合候処、不正之儀聊無之ニ付願等ニ相成候ハ、我存寄有之間心外ニ候ハ、勝手次第ニ可致様存外不法之我意申張、更ニ取敢不申候ニ付、〔合カ〕不得止事御願奉申上候、何卒御慈悲ヲ以御料所之義者向

後庄作助蔵江相頼不申、渡世筋ニ付奈良御奉行所々御用之儀者村々役人共江被仰付下候様仕度、年行司之義者惣代村役人々相見立渡世筋能々相弁候もの江弁利能取寄限リ申付候様被仰付候ハ、聊御差支無御座候様奉存候ニ付、御支配限リ御取締被成下置度偏ニ奉願上候、尚又右仲ケ間外新規ニ鍛冶屋宿屋紺屋其外数々田葉粉小売屋ニ至迄、奈良御番所元ニ組合頭□□、助蔵庄作同様之取目論見いたし追々増長ニ付而者郡中百姓共□□痛眼前之義ニ而重々難ケ敷奉存候、右数々組合渡世仲ケ間無之候而も当国御料所之儀者往古々聊差支無之罷来り候義ニ御座候間、御料所之ものを差加へ御番所元市中ニおるテ新規〔新規渡世〕〔後筆〕渡世仲ケ間取企不申様是又御料所御支配限リ御取締被成下置度、右両様共行末不容易百姓之痛ニ相成呉々難渋之義ニ付不得止事遠路出座御歎願奉申上候、何卒格別之御慈悲ヲ以前件之趣被為聞召訳右御願之通り御聞濟被為下候ハ、広太之義与難有奉存候、以上

安政貳卯年二月
奉行所
御勘定様

前書
右之通り御願奉申上度ニ付乍恐御添翰被為下置度奉願上
候、何卒御慈悲ヲ以御差出し被下置候ハ、難有仕合ニ奉
存候、以上

当御支配所惣代

安政貳年二月廿三日

- 岡村 庄屋 定七 印
- 近内村 庄屋長兵衛代 庄屋見習 松治郎 印
- 阿知賀組 中村 年寄 太兵衛 印
- 檜垣本村 庄屋 孫七 印
- 色生村 庄屋 文六 印
- 平野村 庄屋 新兵衛 印
- 尼ヶ生村 庄屋 孫助 印

内藤左右衛門様
御役所

- 林村 庄屋 藤内 印
- 井村 庄屋 重左衛門 印
- 曾根村 庄屋 永三郎 印
- 新庄村 庄屋 伊右衛門 印
- (異筆) 上市村 庄屋 孫右衛門 印
- 下市村 藤兵衛煩ニ付 代 清兵衛 印

二 餅飯殿町旧蔵文書

(天理図書館蔵)

(表紙)

嘉永貳年

諸記録

餅飯殿町

一 御触書写

安政五年

〔安政五年〕
午八月十日頃より大坂表流行病氣夥敷死人有之先年之三日こ路りと申様成者御座候所、此度ハ一時こ路りと申様成急變之流行病十七八日頃盛ンニ御座候由ニ而南都大坂表へ用向有之又ハ奉公稼ニ抔参り居候もの右病氣ニ而死去致候もの或者右之氣を請帰南之上死去致ものも有之、廿日過る南都表ニも右病氣ちらく流行致し依之町々ニおゐて種々祈禱致又ハいろくまじなひ致候、一頃ハ付もの様ニも申成候、海魚類喰シ候る腹痛相成候よし

申触、魚類頓トうれ不申由何分拵つ烈敷、医師も薬之手当六ツケ敷由ニ而何連も皆々恐連取々ニ風説有之候、当五月肥前長崎を西国筋流行東漸道筋九月頃迄も流行八九月京都表も流行京都ニ而も専魚類あしき由ニ而鱧抔殊ニうれ不申由ニ御座候、当町内ニも右流行病無之様会所ニおゐて仙源堂祈禱いたさせ御蔭ニ而当町右病氣老人も愁ひなし

此時当御番所様を御触流し之写

覚

此節流行之暴^{ボウシヤ}浮病ハ其療治方種とある趣ニ候得とも、其中素人心得べき法を示す、^{アラカシム}予免是を防クニハ都而身を冷す事なく腹ニハ木綿をま記、大酒大食を慎ミ其外^{ウチ}おなれ難キ食物を一切給申間敷候、若此症催し候ハ、早く寢床ニ入りて飲食を慎ミ惣身を温免、左ニ記、芳香散といふ薬を用ゆべし、是のミニして治するもの少からず、且又吐瀉甚敷惣身冷身程に至りしものハ焼酎壱式合の中に龍腦又ハ樟腦壱式匁入あたゝ免て木綿の切にひたし腹并手足江静にすりこみ芥子泥^{カイシジノヂ}を心下腹并手足江小半時位ツ、

度々張るべし

惣年寄

芳香散 上品 桂枝 益智 乾姜 各等分

町代

右調合いたし考式分ツ、時々用ゆべし

芥子泥 からし粉 温飩粉 等分

二 御触書写

安政六年

右あつきすにて堅く柵里木綿切にのはし候事

但シ間ニ合さる時ニハあつき湯ニ而芥子粉はかり柵

〔安政六年〕
此節悪病流行ニ付公儀より禁裏御匙高階典薬少元江被
仰付候、薬法書并ニ防方左之通

里てもよろし

益智散

又

あつき薬ニ其三分一焼酎を和し砂糖を少し加へ用ゆべ

藿香 益智 桂枝 香付子 木香
右五味細末白湯ニ而吞下ス

し

但し座敷を閉、木綿等に焼酎をつけ頻りに惣身をこ

するへし

又手足の先并腹冷る所を温鉄又者温石を布ニつゝみて

湯をつかひたる如きもこゝ路もちなるなどこするも

よし

右者此節流行病甚しく諸人難儀いたし候ニ付其症ニ不抱

早速用ひ候而害なき薬法諸人心得して無急度相達候事

古文書

午八月晦日番所

ハ発汗を第一良法とす、水瀉難行ならざるうち先厚被
を致し其上布圍を重祢着に腰方下を温め湯ニ浴し急ニ
大汗を取べし、胸前苦しく嘔氣有ものハ白湯ニ塩少し

かきませ多く吞鳥の羽を以て喉を探り或ハ自指を入れて
むかへ吐べし、是亦発散之一法也、汗透り熱を催すニ
至れハ多□□とす假令治せるも先急卒を免は医を招き
治療を尽す事を得べし、恐油断すべからず
右之通不取敢相触候間、一町限り町役人共々家別不洩
様事申通候

未七月廿七日 肥前

惣年寄

町代

此節悪病氣流行ニ付従公儀禁裏御匙高階典薬少元江薬
法書被仰付今般調合為致市中之もの江散薬被下候間難
有可奉及候、右者兼而腹用可致置散薬ニ而難渋之もの
者養生方茂不行届キニて有之候間、先ツ端々難渋者多
之町々江被下候間、其余之町々者頂戴仕度く者蒙寄惣
年寄町代迄可申出候

右之通相触候間、得其意町中へ可相触もの也

未七月廿八日 肥前

惣年寄

町代

三 洞川区有文書

一 洞川村明細帳

安政年間

私方村方往古々弘メ来リ候靈薬御座候、乍恐申伝へノ趣
神変大菩薩御神伝ニ而、私共先祖ノ後鬼江御授ケ被下候
処、辱くも人皇四十五代聖武天皇天平十七年始メ而右御
神伝の靈丹を陀羅尼数計と唱候、御勅命を蒙り候由ニ而
今ニ御陀羅尼助と称へ、連綿と諸国参詣人江弘通仕リ来
リ候

三 並川家文書

(並川喜代治氏蔵)

一 藥種につき国中組合取極連印帳

安政七年

(表紙)

安政七年

国中組合取極連印帳

葛下郡高田組

同入念正路ニ商内いたし仲間相互ニ差支無之様可致、

若此上不正之致売買候族有之候ハ、取締所へ申出仲

間相省キ候共申分無之筈ニ候事

一 当国中ニおゐて白目斤之品物所々ニ而、斤目不同有之

不宜ニ付、此度相改京大坂定法之通調製拵之品式百目

に相定、其余唐目斤之品生製共、是迄之通正路ニ商内

取引可致候事

但、切替リ之儀ハ六月廿五日、十二月十日限ト相

定、右日限方早々売方致間敷候事

一 近年人參其外唐藥ニ似寄紛敷品売廻リ候者、他国方当

国江入込医家并素人藥種并香之類等直売不致前々取極

メ之処、近来他国商人猥ニ入込医家其外江直売之者有

之、組合差支ハ不及申、見然不正之品物持扱候而ハ、

第一取調難出来ニ付、以来右躰之商人及見次第品物相

預リ国所名前等聞取、早速最寄行司惣代へ可申出候

事

一 国産和薬并合薬株ニ而薬店同様医家江家内致間敷候事

一 藥種并合薬株ニ而国産和薬山方江直売、又者他国出荷

一 從御公儀様兼而被為仰出候御趣意急度相守申者勿論、
南都藥種取締所方定法書之通、仲間一同不作法無之様
入念可申候事

一 和漢藥種売買之儀者、夫々定法有之候処、近来組合内

定法取崩、纔之近藥者至而下直致し、素人分り兼候遠

古 藥者高直、又者片目方を相減し不実之致売方候族者有

2 之趣、右者金不正之取計、決而有間敷事ニ付、向後一

売等と薬種業躰之差支相成候儀者いたましく候

- 一 和薬種買入ニ付、組合之外無礼之者ヲ手先ニ置、或者自分奉公人ニも無之を奉公人坏と相偽買廻、組合業躰之差支為致候族も有之由、右者不法重頭之致方決而不相成候、向後実々召抱候奉公人者格別其余買入方ニ手廻り兼候節ハ、同渡世之者江中買為致可申、万一不作法有之候ハ、早速取締所江申出候事

但、仲間内々山方江先銀或ハ手付等相掛リ有之方、外仲ケ間内々買入候儀者、相互ニ決而致間敷候事

- 一 合薬仲間之儀者調合売薬其外薬種染料絵能具砂糖類小売渡世之儀ニ付、薬種并和薬株札ニ而合薬仲間之差支相成候儀致間敷候事

- 一 合薬仲間之内、家伝之秘薬方売弘之薬同銘紛敷薬類等、相互ニ差扣可申者勿論、売場買合先々ニおいて他之薬を誹謗いたし、互ニ直段引下ケ糴売等致し候族有之由、第一無益之損失故障之基、決而不宜事ニ付、仲間相互ニ実意正路ニ致、重頭之売方致間敷候事

- 一 薬種合薬店召遣之者不奉公、又者年限相済候ものニ而

も、先生江無対応召抱候儀致間敷、且、奉公人心得違ニ而品物取出し候薬種類等及見次第、其主人江相知らせ決而買入申間敷候事

- 一 薬種株札譲り受切替之節者、其組之行司へ申出、仲間披露之上取締所江可申出、尤仲間振舞料先規之通金式兩年行司江出金為致可申候事

一 薬種売掛ケ代銀近来不払之向有之業躰差支ニ付、先規仲間取極之通、不払之方者一同へ及披露ニ勘定候迄、相互ニ商内差控可申候事

但、不実之致売方見然不算用ニ相成候儀者別段之事一 国中年行事参会之儀、先規之通毎年二月八日ト相定有之、右参会且往返入用等仲間一同拘候儀ニ付、薬種屋ハ銀五分、和薬合薬屋ハ式分五厘宛、例年九月ニ年行司へ可相渡候、右集銭参会之節、持寄諸入用仕払可申候、尤年行司之内、若差支有之候ハ、慥成名代差出決而不参致間敷候

右之条々國中惣組合一同申合、先規取極ニ順じ相定候上者、急度入念無違失相守正路ニ取引致候、万一右取極メ

相背不作法之もの有之候ハ、取締所へ申出仲ケ間相省
キ候共、聊故障申間敷筈、為其議定書一同連印如件

(二二〇人連名 略)

一四 橋本家文書

(京都大学附属図書館蔵)

一 薬種屋合薬屋組合株につき伺書

松田相摸守

奈良北袋町

藤兵衛

和州広瀬郡箸尾村

大福寺領

同州同郡同村

太兵衛

右兩人願出候者和州ニ者薬種組合無之故同薬種ニ而も
所々より直段高下有之区々之取引ニ而取締無之ニ付和
州町方在方薬種屋合薬屋組合株相定藤兵衛太兵衛右組

頭相勤薬種売買是迄之通ニ而向寄ニ組合定置有之入念
若手抜無之技物之薬種其外和薬類とも組合限ニ相改さ
せ紛敷品も有之候ハ、組合頭兩人を早速可訴出右組合
株差免候ハ、和州町方在方薬種屋合薬屋共より毎年人
別銀拾五匁ツ、為差出惣銀高之内半銀通者為冥加相納
残銀者為諸入用兩人取之薬種代銀滞候節者兩人より願
出度旨申之候、薬種之儀ニ付而者去ル亥年九月御触も
御座候儀故、兩人願之趣を以大坂町奉行を承合候処差
障之筋無之旨申越候、依之和州町方在方薬種屋合薬屋
共一同呼出相願候処奈良町ニ式拾三人在方ニ九拾八人
有之在方之者共ハ兩人願之通毎年人別十五匁宛出銀い
たし差支無之旨申之候、奈良町廿三人儀兩人組合相離
別株ニ申付候ハ、年行事相定藤兵衛太兵衛願之趣意ニ
准シ常々入念若紛敷品も有之候ハ、早速可申出、右願
之通差免候ハ、為冥加年々銀拾枚宛年行事者置納可仕
旨申之ニ付此段願人共江申渡相尋候処奈良町之儀者別
株申付候共差障無之旨申之候、然ル上者奈良町之儀別
株ニ申付候ハ、乍纒御益も相増候儀ニ御座候間在方之

儀者藤兵衛太兵衛願之通差免在方九拾八人分出銀高老
 貫四百七拾目之内半銀七百三拾五匁者年々取立殘銀者
 兩人之者江為諸入用差遣奈良町廿三人々々毎年銀拾枚
 宛為相納願之通別株ニ可申付候哉、左候ハ、去ル亥年
 御触之趣も御座候儀取締ニ茂相成可申哉、依之藤兵衛
 太兵衛并奈良町貳拾三人之者共指出候書付共写三通差
 上此段奉伺候、以上

寅十二月

一五 伝香寺豊心丹の由緒

(伝香寺蔵)

一 伝香寺豊心丹由来版木

南都伝香寺豊心丹由来

後奈良院乃御宇亨禄元年戊子年足利管領畠山左京大夫義
 忠南禅寺の僧昌虎首座を使として大明世宗肅皇帝へ薬方
 を乞しむる乃所同二年己丑二月上旬に上三官鄭舜功と云
 者来朝して始而豊心丹の薬方を伝ふ然ル所畠山義忠と和

州筒井城主順昭榮舜房と常に懇情を通せられしによつて
 此豊心丹の方を榮舜房に授くそれよりして筒井家乃家方と
 成て代々是を調合し衆民にあとふと也されば筒井家四十
 八代陽舜房順慶法印此伝香寺を再興して二世の志願を祈
 る依之右豊心丹の薬方を伝香寺へ授られ代々調合いたし
 衆人に得さしむる者也

豊心丹功能

- 一 志よくしやう 一 こわりはら 一 ときやく
- 一 めまい 一 里病 一 くたりはら
- 一 はらのいたみ 一 つかへ 一 志やく
- 一 小児一切の病によし

右何茂さゆにて用

- 一 むねのいたみ 一 たんのわづらい是へしやうがの汁にて用
- 一 のんどいたむニハ はつかのせんじ汁にて用
- 一 中風ニハ 酒にて用
- 一 酒に多ひたるニハ 水にて用
- 一 おこりニハ 東へなが流る水にて桃の枝柳乃枝
- 一 牛馬犬猫のわづらいにも水にて用ひてよし

一六 片岡家文書

(片岡彦左衛門氏藏)

一 和藥株につき歎願狀

文化十一年

乍恐貧家御歎奉願上候

大和国十五郡村数千三百余之村方

内困窮之村数千ヶ村々

貧乏人惣代之ものとも

一 当国御宮様御修覆御用意金并寺社方江從御上様御寄付御祠堂金其外品々名目を企、当国下々有徳金持之者共少々宛御冥加金差上ケ、右余分之御修覆料金并御祠堂金少々計り貸り下ケ、其金子ニ准而銘々所持余分之金子御名目ニ名付、困窮之村々を見込貧乏之者共江近年過分之金子貸付、其上証人請人并庄屋年寄組頭迄名前を書取り不審敷印形取之貸付、其金子之内ニ

而右書取り証文之書賃取り落し、貸付置六ヶ月メ二月老分半宛之利足相掛ケ、証文切替後六ヶ月目ニハ利ニ利足迄相掛ケ、老ヶ年分十四ヶ月ニも相重リ候様ニ取組貸付置、万一不埒之者有之候ハ、南都御番所様江

急訴いたし候得ハ〔御裏印(後筆)〕直様御番所様ニも御差紙等被為差出、是又御催促同様之御召出ニ飛脚賃一里ニ付五拾文宛御定之賃錢取之、又外ニ隣村も右同様之出訴も数多有之節ハ、飛脚老人として何ヶ村も一緒ニ持参いたし、村毎ニ定リ之賃錢取立、且亦村方ニ道法割合多キ村方も有之、是迎も飛脚之者江毎々断申候得共、不聞入取り貪迷惑仕候、右出訴ニ付而者大勢加判人共不殘其外ニ村役代として一人付添迄被呼出、必至難波不願被為召出候事ハ、既ニ旧冬も御番所様溜ニ詰居候、人々凡式千人も溜リ居候趣、是皆困窮之者共御年貢銀ニ調置候銀子も無是悲(非)引違名目返金ニ被引落、御年貢之差支ニ急度相成候儀眼前ニ御座候事

一 和藥株油株質株古手道具古金屋皆是等之諸株当国ニ一切無御座候処、諸株企願出候者宝曆四戌年石黒日向守様南都御番所御勤番之節当国新規之株立願出冥加金少々差上ケ候ニ付御間届被為在、夫々当国惣百姓共手作之和藥等百姓共心儘ニ京大坂表江心儘送込売捌候儀決而不相成、百姓共ハ手作なからも有徳株持之身上根次

仕候様ニ成行、株持之者共手広売捌候得共、百姓者漸々廻り衰微仕罷在、尚又大坂表湊ニ而ハ百六拾匁斤之代呂物当国ニ而者式百五拾匁ニ掛ケ取り、又式百五拾匁斤之代呂物ハ式割ツ、込目掛ケ取り、此外たばこハ老駄ニ付七斤五歩之込目掛ケ取り、青物類ハ老駄ニ付四貫目ツ、込目掛取如斯諸株相究メ、則南都表ニ株会所相定置候、已来商人共百姓手作之諸代呂物檀ニ買取リ、其上有徳之者共銘々要用之商売ニ貸付、金銀返済不埒候得ハ薬種先銀と申立、御番所様江郡々村々貸付之者共相手取早速出訴仕候ニ付、被為召出無是悲罷出候得共、至而困窮之者共費厭要用之銀子成レ共相済、御太切之御年貢不埒仕大ニ御役所様江ハ御差支ニ相成候事者数度之事御座候、此外油株迄も同様之儀、則油屋共申合菜種其外出産之油ニ絞草類買入直段下直ニ相究百姓とも江売渡候、肥し油ハ相場を勝れて高直ニ売出し、商売要用之取替貸付金銀ハ前文同様ニ菜種先銀と申立、油一件之儀ハ京都御奉行所様江出訴仕為召出候様ニ申弘メ候ニ付、御年貢御皆済并御未進方返済差

支、扱又質屋株是等之儀ハ当国ニおゐて身上宜敷有徳之者共企ニ付、無株ニ而ハ決而質物不為取候ニ付、遠方たりとも質屋方江持運せ其上百目之代呂物も五拾匁ならてハ借渡し不申而已、村役人ニ而も無株ニ而者金銀貸シ借り不通用ニ付、大ニ御年貢差支ニ相成申候事眼前ニ候、且又当国ハ山九分之一国、先年炭焼出之儀ニ付炭焼御年貢納居候村々多有之内、纔之村々炭焼稼差留南都御番所様江出訴仕出入ニ相成候節、炭役無御座候村方ハ一国炭焼稼御差留被為在候儀哉、炭役納候村々隣郡村々炭焼稼増仕御年貢調達仕居候村々江踏越、強気重頭ニ炭かま打碎キ差留難渋仕罷在候、然共前文奉申上候通山林九分之一国殊更皆畑同前之村々多ク、往古々山御年貢御上納仕百姓作間之稼キ増ニ柴薪炭灰其外諸材木仕出し売払、御年貢御上納金銀たえくニ仕居候処、近年御差留被為在候趣当国山方惣百姓共至而難渋弥増御座候儀哉、古来々御免定ニ山年貢夥敷御書載有之候村方も炭焼稼キ一向出来不申、尚又林置候諸木も自下直ニ成行、漸々惣百姓共山稼キ無敷

候故困窮弥増候ニ付、御年貢御上納銀調達御差支ニ相成候儀眼前御座候事

右之通前書ヲ以御歎奉申上候儀、甚奉恐入候得共一国惣百姓共手段之不及勘弁、当時者御名目金并御祠堂金徘徊其外有徳之者共名目借り下り付名目ヲ以、銘々余分之金子貧家之者共江高利加夥敷貸付、尚又色々株立之銀貸付申ニ付皆是等返金而已心尽居、御太切之御年貢御上納銀匱略ニ仕、御代官様并御地頭様方江大ニ御苦勞相掛、御公儀様江者御年貢御差支ニ相成、甚以先□奉存候処、既ニ旧^{〔近頃〕}猶^{〔後筆〕}も当国村数千三百余之村々凡式千人も御番所様人溜り詰居候趣御座候、此費等も夥敷義其上前書品々之返済金何れ共被取立候而者、一国惣百姓一躰ニ潰レ申様ニ成行候事、如何計歎ケ敷奉存候間、何卒前書ニ奉申上ケ候、宝曆年号之節当国出頭之者共方追々諸株企願出候処、御聞届ケ被為在諸株相究候、已来惣百姓共作掘出し候和菓類、有徳株願之者共褒貶ヲ以申合買メ置諸国勝手々江手広売捌、百姓共ハ格別ニ骨折銘々作出し諸代呂もの金持中居之者共身

上根次仕、出産之和菓百姓之勝手儘ニ他国江売捌候儀不相成様ニ成行、年々衰微仕候ニ付御年貢差支歎ケ敷奉存候、此儀可成義ニ候へ者、往古之様ニ被為成下候様当国貧家之百姓共毎々相続仕、銘々手前之諸代呂物思儘ニ売捌候様ニ被為成置候ハ、京大坂表ニ而菓種先銀借り入候様ニ代呂物見せ借り入候得者、年五朱ニ而先銀借り入御年貢御上納仕候様ニ相成、左候得者利足計りも老割余ツ、百姓貧家之益ニ相成年々相続可仕、且又御年貢差支ニ不相成候、此外油株質株右准し身元宜敷者褒貶惠利足ニ追ひ為倒、惣百姓困窮弥増候段如何計歎敷御上々様格別之御勘弁ヲ以厚御憐愍之程奉願上候、此儘御捨置被為成下候而ハ、一国平地山方共惣百姓共一躰潰他国住居ニ成行候事後悔至極歎ケ敷、幾重ニも御勘考被為在、此趣御江戸表江も御歎御披露被為成下候様押而願上候、以上

文化十一年 大和国御料私領惣百姓共惣代